



(住所) 吉野町南国栖1
(祭神) 天武天皇
(交通) 近鉄大和上市駅から吉野町
コミュニティバス(オンデ

マンド)で「浄見原神社口」
下車、西へ徒歩約10分
(駐車場) あり(有料)
(電話) なし

浄見原神社 (吉野町)

浄見原神社は、吉野町南国栖を流れる吉野川右岸の断崖に鎮座しており、祭神は天武天皇です。大海人皇子(後の天武天皇)は、近江大津宮で、兄の天智天皇から皇位継承の要請を受けましたが、これを固辞して出家し吉野に逃れました。伝承によれば、吉野の



国栖人は、皇子を和田岩窟に匿い、一夜酒やウ

グイなどを献上するとともに、応神天皇に由来する歌舞「国栖奏」を奏上しました。その後、壬申の乱で勝利した天武天皇は、即位に際して国栖人を召して国栖奏を奏上させました。

それ以降、大嘗祭や節会などの重要な行事で奏上されましたが、時代が下るにつれてその機会が少なくなってきました。このため、平安時代末、国栖人は、和田岩窟の近くに浄見原神社を創建して、国栖奏を奉納するようになった。以降、毎年、旧暦1月14日に絶えるこ

となく行われています。当日は、拝殿の通路部分が板でふさがれ、舞殿になります。演じるのは、「翁筋」の家の人達で、舞翁2人、笛翁4人、鼓翁1人、謡翁5人の計12人です。 拝殿から続く石段の上には本殿があり、石段には一夜酒・ウグイ・木の実・根芹・アカガエルが供えられます。(奈良まほろばソムリエの会会員 池内力)

天武天皇しのぶ歌舞

(奈良まほろばソムリエの会会員 池内力)